

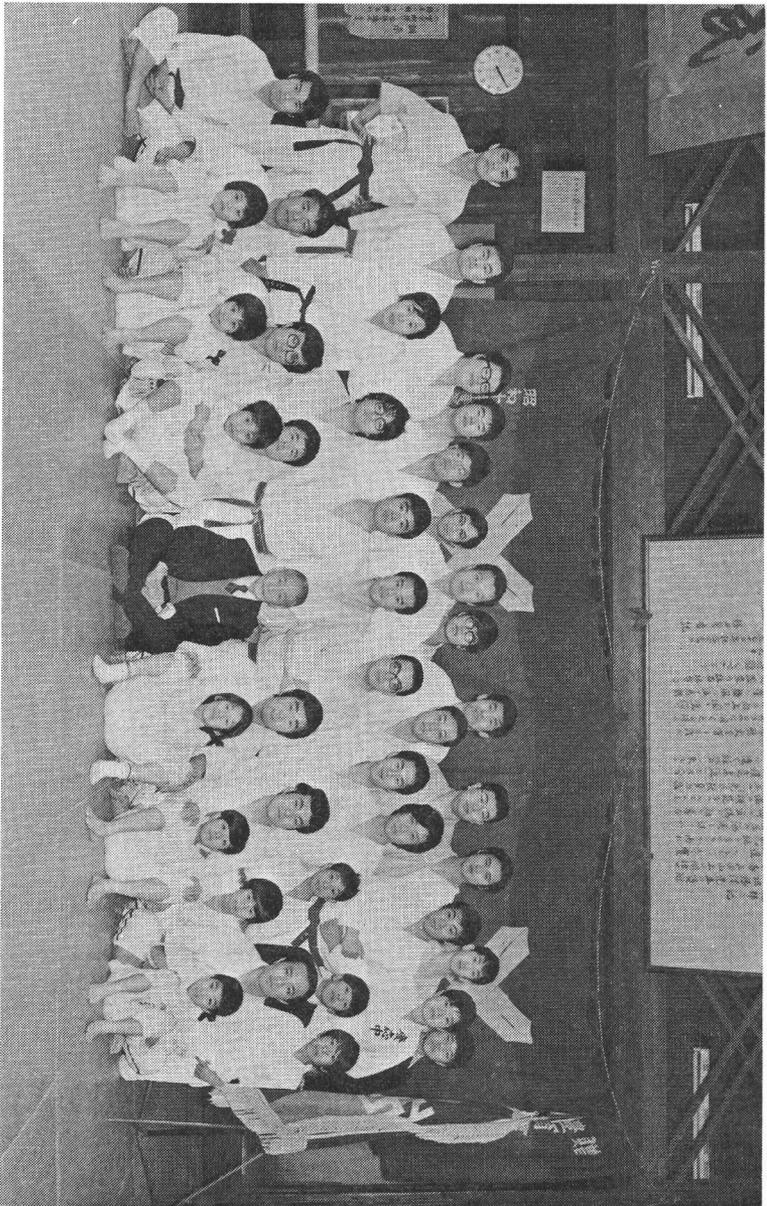
昭和五十一年度

続 く 者 に 希 む

黒 部 篤 志

塾柔道部が一昨年、全日本学生の一部復帰を果して以来、公式戦に於いて他の一部校に一度も勝てなかった。今年こそ上位進出を果すべく春合宿から全員気合を入れて猛練習に耐えて頑張ったが結局、東京大会では三回戦で国士館に敗れ、又全日本学生選挙権に於いては大東文化大学との試合に一点も取れず完敗を喫してしまった、結果的には、上位進出を果すことが出来ず他から見れば、情けない様にも思われる試合展開であったかも知れないが、しかし個々の選手がその日の為に連日の厳しい稽古にも真剣に取り組み、又、数々の練習試合も経験し必勝の意気込みで大会に臨んだのである。

勝つ者もいれば敗ける者もいる。その試合を振り返っただけで簡単にその者の評価を下すのは間違ひではなからうか。日頃、真面目に黙々と練習に打込み、自分なりに精一杯努力した者が、試合に於いて、その者の実力を遙かに越えた者と対戦する事もあろうし、いい加減に練習している者が、たまたまその者よりも劣る者と対戦し、容易に勝利を得る場合もある。だから本当の選手に対する評価は大会迄の練習の内容にあると言えるのではなからうか。例えばレギュラーを決める場合に於いても、練習試合等で勝つ者を選ぶか、あるいは体力的には恵まれていないが練習熱心で人の二倍も三倍もやるが実力的には今一つという者を選ぶかに迷うことがある。実力に大差がない場合には後者



昭和五十一年卒業生送別記念

を、差が歴然としている場合には前者を選ぶことになる。特に早慶戦について言及すれば、二十人戦で行なわれるこの試合にすら選手に選ばれない者がいる。その中には練習を人一倍やる者もいる。この問題は看過されるべきものではない。要するに実力的に優れた者が各自自覚を持ち真剣に練習に取り組めば、おのずと他の者もついてくるだろうし、そのことが部全体の実力向上を計り、又全員戦と、いっても過言ではない早慶戦の勝利への絶対条件だろうと考える。現在、塾柔道部のレギュラーは、確かに二部校相手には勝つことが出来るであろうが、こと一部校相手にとしようと、ポイントを確実に取れる者は殆どいない。最近の一部校と二部校との差は、あまりにもかけ離れているというのが現実であろう。塾柔道部は、その中間に位置している様に思われる。即ち、一部を維持することに精一杯という感がするのである。一部校に復帰したにも拘わらず、他の一部校との格差があまりにも大き過ぎる（見当違いかも知れないが）為、素質的にも、体格的にも他校に決って劣ると思われぬ部員もいるが、いつしか目標を失い一部を確保すればという考えになってしまう傾向にある。これに対処するには、年に何回かは、明治、拓殖等常に上位に位置している大学との練習試合をやるべきだと思ふ。かつて塾柔道部が全国にその名声を轟かしていた時代には、大学のみならず、町道場、警察等とも積極的に練習試合を試みたと聞いている。遙かに実力が上の者とやるには……と考えられるかも知れないが、練習試合はあくまで練習である。練習で恥をかき、又情けない目にあつても、それを我慢し、乗り越えた時に初めて試合に勝つことの尊さを感じるであらう。三時間の乱取りより、五分の練習試合の方が内容がある場合もある。今の塾柔道部員には、柔道に勝ち、試合に負ける者が殆どだ。試合巧者になる為にも前述の練習試合は欠かせないであらう。現在、塾と共に低迷しているライバル早稲田を早く倒し、より一層大きな目標に向つて後輩達が突き進んでゆくことを真に切望してやまない。

役員

師部	石川忠雄	副主	山際正明	主務	黒部篤志	幹事	田中辰己	副主	山本秀夫	主務	加藤義康	副主	金子正志	主務	岩崎保夫	副主	田中茂樹	主務	伊藤定史	副主	蓮菜嘉治	主務	菅原慈郎
長	雄	務	輔	志	夫	治	己	務	夫	治	康	務	志	夫	樹	史	治	治	史	治	治	治	治
範	一	事	明	志	己	治	己	務	夫	治	康	務	志	夫	樹	史	治	治	史	治	治	治	治
長	一	事	明	志	己	治	己	務	夫	治	康	務	志	夫	樹	史	治	治	史	治	治	治	治

連盟委員 折原美樹
 日吉高校コーチ 湯本公庸(兼普通部コーチ)
 〃 植松修一
 志木高校コーチ 忍足正彦
 幼稚舎コーチ 高輪真澄

寒 稽 古
 一月十二日〜一月二十五日 於 綱町道場
 一月十二日より恒例の寒稽古が始まった。例年のように先輩も多数参加し、最近のように学生の数が少ないと余計多く感じられる。先輩も学生も寒さにもめげず二週間を頑張りぬいた。最終日には久しく中止されていた無段者の塾内月次試合が開かれ、先輩、学生の見守る中、幼稚舎生をはじめ三十数名が出場した。月次試合の後に、お汁粉会があり二週間の疲れも忘れて温かいお汁粉に舌づつみをうっていた。

進級月次試合 一月二十五日 於 綱町道場
 昭和四十三、四年頃から中止されていた無段者の塾内月次試合が、久々に再開された。この日は寒稽古の最終日でもあり、多数のOB、現役、父兄の見守る中元気の

合宿所主務
 体育会常任委員

轻量級

一回戦

○小林勝彦
檜木典夫不戦
縦四方浦上(平沼)
○田島桐陰

二回戦

小林

優勢

○金子(浅野)

中量級

一回戦

竹内弘平
○島田靖也シード
谷落

池田(川和)

○尾崎透
⊖相馬紳一郎シード
優勢

松原(緑丘)

二回戦

竹内

裏投

○森沢(松陽)

○島田

縦四方

阿部(浜商大)

三回戦

○尾崎
島田背負投
大外刈○松村(武相)
三田(桜丘)

相馬

優勢

○鈴木(南)

鈴木

優勢

○奥山(港北)

四回戦

⊖尾崎

優勢

田島(翠嵐)

準決勝

○尾崎

払腰透

鈴木(南)

決勝

尾崎

背負投

○青柳(桐蔭)

重量級

一回戦

深山隆
山本修
○内苑孝美大腰
シード

○安村(日大)

○竹内要司

大外刈

長峰(鶴工)

二回戦

山本

内股

○大竹(南)

○竹内

払腰

○川口(南)

三回戦

○竹内

払腰

一沢(桐蔭)

準決勝

○竹内

袈裟固

安村(日大)

決勝

竹内

合技

○青山(桐蔭)

卒業生送別試合

二月十四日 於 綱町道場

四十数名が集まり、卒業生送別試合が行なわれた。今年の卒業生は七名であったが、先輩がほとんど出席せず淋しい送別試合となった。それでも現役は幼稚舎生をはじめ、みんな元氣よく戦っていた。

○対馬好一	体落	河合(幼稚舎)
○対馬	横四方	木塚
○対馬	体落	大内
○対馬	体落	小茂鳥
○対馬	体落	小林
○対馬	体落	西村
○対馬	縦四方	宮島
○対馬	大外刈	塚原
○対馬	体落	生田
○対馬	袈裟固	今田(中等部)
○対馬	大内返	岩崎
○対馬	合技	斎藤
対馬	内股	○植松(大学)
対馬	内股	○植松
塩山英介	引分	植松
渡辺雅二		

卒業生

在校生

体育会功労賞選手章受賞者

功労賞 伊藤哲也、対馬好一、松永幹夫
選手章 野見山洋朗、浅井幸広、渡辺雅二、塩山英介

第十五回東京学生柔道体重別選手権大会

四月十八日 於 講道館

本塾より六階級に十二名出場したが、ほとんど二、三回戦で敗退した。

軽量級

一回戦

羽鳥 信	小内刈	喜多(早大)
湯本 公庸	優勢	辻(東大)
二回戦		

野見山 洋朗	引分	高 輪
○松永 幹夫	優勢	佐 藤
○松永	背負投	伊 藤
○伊藤 哲也	大外刈	○門野
○伊藤	小外刈	門野
○伊藤	弘 腰	平 川
伊藤	内 股	忍 足
伊藤	引分	湯 本
		蓬 萊

出場することが出来なかった。団体の部では準々決勝で桐蔭学園に一对一のあと代表戦の末敗れた。引き続き関東大会代表決定戦で秦野高校と対戦し三対二で勝ちをおさめ、久しぶりに関東大会の出場権を得た。

個人の部

一回戦	竹内要司	合技	樋口(鎌学)
〇深山隆	大外刈	渡辺(大和)	
尾崎透	背負投	〇磯田(藤沢工)	
山本修	優勢	〇川嶋(藤沢)	
〇内苑孝美	大外刈	松田(江南)	
二回戦	竹内	大外刈	遠藤(三崎)
〇深山	優勢	勝吉(湘通)	
〇内苑	弘腰	高嶋(湘南)	
三回戦	竹内	弘腰	渡辺(江南)
〇深山	袈裟固	大沢(伊勢原)	
内苑	体落	〇楠本(日藤)	
四回戦	竹内	大外刈	阿部(日藤)
〇深山	合技	加藤(武相)	

ブロック準決勝	竹内	抽選	御園(桐蔭)
〇深山	優勢	〇鈴木(桐蔭)	
ブロック決勝	竹内	優勢	〇大谷(東海)

団体の部

一回戦	日吉高校	5	0	淵野辺
二回戦	〇相馬(紳一郎)	絞技	先鋒	星野
先鋒	〇島田靖也	大外刈	梅津	
〇尾崎透	内股	河本		
副将	〇竹内要司	弘腰	副将	伊藤
大将	〇深山隆	合技	大将	芦野
三回戦	日吉高校	1	1	藤沢
先鋒	相馬	引分	先鋒	森
島田	引分	小形		
尾崎	引分	深沢		
副将	〇竹内	大外落	副将	岩崎
大将	深山	優勢	大将	〇折原
四回戦				

日吉高校

3 — 0 城北工

先鋒 相馬

引分 先鋒 美濃島

合技 飯島

副將 ○尾崎

引分 小山

準々決勝

日吉高校

1 — 1 桐蔭学園

先鋒 相馬

引分 先鋒 小山

大外刈 齋藤

副將 尾崎

引分 青柳

代表戦

大将 深山

固技 大将 ○一沢

関東大会代表決定戦

3 — 2 秦野

先鋒 相馬

内股 先鋒 ○柳川

大外刈 今川

副將 ○尾崎

合技 日比

大将 深山

副將 ○竹内

合技 大将 ○山田

春季大会

五月五日 於 網町道場

恒例の春季紅白試合が開かれ、午前中に初段までの紅白試合を、午後には大学生を混えて出身地別に東西にわけて、東西対抗戦が行なわれた。

紅

白

先鋒 河合

中田

○石井

○石井

石井

根岸

峰井

石本

市野

○後藤

○後藤

後藤

鈴木

成毛

佐藤

袈裟固 先鋒 ○生田(幼)

優勢 ○生田

弘腰 生田

袈裟固 岩崎

弘腰 渡辺

優勢 渡辺

弘巻込 渡辺

優勢 渡辺

引分 渡辺

不戦 有吉

弘腰 三田

後藤 吉原

袈裟固 大外返

袈裟固 佐藤

袈裟固 佐藤

三人掛

見玉一男 ○優勝 松本 司
 ○体落 折原美樹
 ○背負投 加治秀基

第二十五回東京学生柔道優勝大会

五月二十三日 於 日本武道館

緒戦は工学院大学に対して五対一とまずは順当に勝ち、三年連続全日本出場を果たした。次の試合では国士館大学と対戦し、先鋒がいきなり背負投で一本取り、五将も優勢勝ちをおさめ二対一とリードし、敵陣を浮足立たせた。しかしその後が続かず、結果は二対五で敗退した。

一回戦 シード
 二回戦

本 塾 5 — 1 工学院大学

先鋒 金子正志(2) 引分 長谷川(2)
 ○黒部篤志(2) 優勢 渡辺(2)
 佐藤隆夫(2) 優勢 ○谷田部(2)
 ○植村一郎(2) 内股 西池(3)
 ○植松修一(2) 横四方 鈴木(2)
 副将 ○山本秀夫(2) 送襟絞 横木(2)

三回戦

大将 ○慶田兼信(3) 内股 細野(3)

本 塾 2 — 5 国士館大学

先鋒 ○黒部篤志(2) 背負投 先鋒 島田(3)
 植村一郎(2) 優勢 ○西田(2)
 ○植松修一(2) 優勢 ○朝倉(3)
 慶田兼信(2) 合技 ○吉村(3)
 佐藤隆夫(2) 背負落 ○新堀(4)
 副将 立山由生(2) 優勢 副将 ○日蔭(2)
 大将 山本秀夫(2) 払腰 大将 ○工藤(3)

五月三十日

個人の部

軽量級

一回戦 ○相馬 伸一郎 後袈裟 今川(藤商)
 ○小林 勝彦 崩袈裟 駒田(津久井)

二回戦 ○相馬 不戦
 小林 優勢 ○尾仲(湘南)

三回戦 ○相馬 絞技 西井(東海)

負け、続く札幌大には勝ったが結局二勝一敗で決勝トーナメントには出場出来なかった。

リーグ戦

先鋒	黒部篤志(2)	合技	先鋒	斎藤完二(2)
植村一郎(2)	大外刈	先鋒	坂東篤司(3)	
○植松修一(2)	横四方	副将	宮下兼二(2)	
○佐藤隆夫(2)	内股	引分	小池健文(2)	
立山由生(2)	引分	副将	佐藤豊典(3)	
金子正志(2)	優勢	引分	目黒正人(2)	
大將 山本秀夫(2)	引分	大將	谷脇徹(2)	

本塾 4 — 1 岡山大学

先鋒	黒部篤志	引分	先鋒	藤川秀治(3)
植村一郎	引分	大黒憲三(2)		
植松修一	擲投	○山本敬吉(3)		
佐藤隆夫	擲投	○遠藤治男(3)		
立山由生	崩上四方	○中村晴喜(3)		
副将 金子正志	引分	副将 川端甚次(2)		
大將 慶田兼信(3)	優勢	大將 西木真一(2)		

本塾 4 — 2 札幌大学

先鋒	黒部篤志	合技	先鋒	河合富丸(2)
植村一郎	大外刈	副将	稲辺幹夫(2)	

○植松修一	優勢	坂本広光(3)
佐藤隆夫	引分	十河力也(2)
○立山由生	大外刈	林寿彦(2)
副将 加藤義康(3)	背負投	副将 高橋仁(2)
大將 慶田兼信	優勢	大將 榎引孝夫(2)

第二十四回関東高等学校柔道大会

六月十三日 於 栃木県体育館

ブロック戦では江戸崎高校と対戦し、五対〇と快勝した。もう一勝すれば決勝トーナメント進出できるとあって皆張切って大宮工業との一戦に挑んだが、中堅で勝負は決った。

先鋒	相馬紳一郎	絞技	先鋒	秋山
○島田靖也	優勢	宮本		
○尾崎透	優勢	大塚		
副将 竹内要司	合技	副将 酒井		
大將 深山隆	優勢	大將 細谷		

日吉高校 0 — 3 大宮工

先鋒	相馬	優勢	先鋒	手塚
島田	優勢	○田中		
尾崎	小内刈	○吉田		
副将 竹内	引分	副将 畔上		

大将 深山 引分 大将 西島

第二十六回全国高等学校柔道大会神奈川県予選

六月二十一日 於 東海大学湘南校舎

インターハイ予選会では準決勝まで順調に進み、日大藤沢高校と対戦した。日大藤沢は関東大会予選会で二位になった強敵であったが、全員よく戦った。しかし、先鋒、次鋒と先取され、この二点を最後まで取り返えずとがでえず、三位に甘んじた。

一回戦 シード

二回戦

日吉高校 5 — 0 北陵高校

先鋒 〇島田 靖也 合技 先鋒 水沢

〇竹内 弘平 合技 橋本

〇竹内 要司 払腰 柴村

副将 〇尾崎 透 合技 副将 井手

大将 〇深山 隆 内股 大将 朝倉

三回戦

日吉高校 5 — 0 鶴見工業高校

先鋒 〇島田 大外刈 先鋒 山下

〇竹内(弘) 上四方 長峰

〇竹内(要) 払腰 清信

副将 〇尾崎 合技 副将 人見
大将 〇深山 裏投 大将 高橋

日吉高校 5 — 0 横須賀学院

先鋒 〇島田 裏投 先鋒 神山

〇竹内(弘) 崩上四方 高木

〇竹内(要) 払腰 荒木

副将 〇尾崎 優勢 副将 杉山

大将 〇深山 内股 大将 柴崎

五回戦

日吉高校 3 — 1 南高校

先鋒 〇島田 大外刈 先鋒 田所

〇竹内(弘) 大外刈 〇川口

〇竹内(要) 払腰 鈴木

副将 〇尾崎 引分 副将 大竹

大将 〇深山 内股 大将 鹿又

準決勝

日吉高校 0 — 2 日大藤沢高校

先鋒 〇島田 背負投 先鋒 〇野沢

〇竹内(弘) 優勢 〇宮嶋

〇竹内(要) 引分 引分 池田

副将 〇尾崎 引分 副将 楠本

大将 〇深山 引分 大将 阿部

神奈川県高等学校柔道大会

六月二十七日 於 東海大学湘南校舎

県の大会では三校の予選リーグを行ない勝率の良い学校が決勝トーナメントに進出できる。塾校はBブロックに出場し、桐蔭、日大と対戦したが一勝一敗に終わりとトーナメント進出は果せなかった。
Bブロック

日吉高校 0 — 4 桐 蔭

先鋒 島田 合技 先鋒 鈴木

相馬 引分 青柳

竹内 優勝 青山

副将 尾崎 谷落 副将 一沢

大将 深山 大内刈 大将 御園

日吉高校 3 — 1 日 大

先鋒 島田 優勝 先鋒 平野

○相馬 縦四方 中川

○竹内 弘腰 許田

副将 尾崎 大外刈 副将 安村

大将 深山 引分 大将 石野

神奈川県高等学校柔道大会(個人第一次予選会)

七月二十四日 於 県立武道館

この大会は団体の先鋒・中堅・大将を体重によって三

つの部に分けて、優秀選手を決める。竹内(要)、深山が勝ち残ったが、学校の行事の都合で第二次には出場しなかった。

先鋒の部

一回戦

相馬 紳一郎 優勢 森(藤沢)

鈴木 晋一郎 優勢 前田(法二)

中堅の部

一回戦

○島田 靖也 大外刈 小宮(法二)

竹内 弘平 優勢 川島(藤沢)

二回戦

○島田 合技 高木(須学)

三回戦

○島田 大外刈 井上(大和)

四回戦

○島田 優勢 若林(日蔭)

五回戦

島田 優勢 折原(藤沢)

大将の部

一回戦

○竹内 要司 シード 鶴岡(相洋)

○深山 隆 合技

二回戦

○竹内 大外刈 矢野(三崎)

○深山 合技 錦戸(南)

三回戦

○竹内 弘腰 金沢(秦野)

○深山 内股 橋本(大和)

四回戦

○竹内 大外刈 杉山(須学)

○深山 弘巻込 荒木(須学)

五回戦

○竹内 弘腰 菅原(武相)

○深山 後腰 平塚(茅ヶ崎)

高校合同合宿

七月二十一日〜二十六日 於 日吉道場

夏休み合宿では松商学園、京華高校と合同稽古をする
 とともに、練習試合を行なった。結果は六勝四敗一引分
 とおわたが、試合を通してそのたびに力をつけてきた。

七月二十一日

日吉高校 2 — 3 松商

先鋒 檜木典夫 合技 先鋒○津金
 高橋健治 大外返 ○吉沢
 森吉平 絞技 ○降旗

副将○竹内弘平 弘巻込 副将 鶴川

大将○内苑孝美 優勢 大将 牧田

日吉高校 5 — 0 松商

先鋒○相馬紳一郎 優勢 先鋒 津金

○竹内弘平 優勢 吉沢

○尾崎透 大外刈 降旗

副将○内苑孝美 弘巻込 副将 鶴川

大将○深山隆 弘巻込 大将 牧田

日吉高校 4 — 1 松商

先鋒 小林勝彦 背負投 先鋒○津金

○内苑孝美 弘巻込 吉沢

○島田靖也 大外刈 降旗

副将○竹内要司 弘腰 副将 鶴川

大将○竹内弘平 縦四方 大将 山口

日吉高校 3 — 1 松商

先鋒○山本修 袈裟固 先鋒 牧田

○竹内弘平 合技 守田

内苑孝美 背負投 ○津金

副将○長谷川裕二 優勢 副将 山口

大将 鈴木晋一郎 引分 大将 吉沢

日吉高校 3 — 4 松商

先鋒 佐藤徹也 絞技 先鋒○津金

七月二十三日

副将 山本 修 引分 副将 水野
 大将 尾崎 透 大内刈 大将 岩瀬

七月二十五日

日吉高校 3 — 1 松商

先鋒 相馬 紳一郎 優勢 先鋒 降旗

檜 木 典 夫 背負投 ○津金

森 吉 平 引分 牧 田

副将 内苑 孝美 弘腰 副将 山口

大将 竹内 弘平 大外返 大将 鶴川

日吉高校 3 — 2 松商

先鋒 小畑 政治 送襟絞 先鋒 降旗

○竹内 弘平 足弘 津金

高橋 健治 背負投 ○牧 田

副将 森 吉 平 袈裟固 副将 山口

大将 内苑 孝美 弘腰 大将 守田

四 国 遠 征

七月二十二日～二十八日

四国遠征は七月二十二日より七日間行なわれたが、高松を皮切りに徳島、高知、松山と転戦した。各地で試合を行なったが戦績はかんばしくなかった。この間、合同練習を十分積み重ね、二十八日無事遠征を終えた。

対香川県警對抗試合

七月二十三日

本塾 1 — 15 香川県警

先鋒 高木 啓一郎 引分 先鋒 横井

堀 江 伸 也 横四方 ○吉岡

羽 鳥 信 内 股 ○茨木

平 川 典 利 横四方 ○塩田

加 藤 義 康 横四方 ○牟礼

田 中 茂 樹 崩袈裟 ○細川

長 島 康 郎 上四方 ○中塚

鈴 木 和 史 小外刈 ○山下

植 松 修 一 弘巻込 ○瀬尾

松 本 司 横四方 ○有吉

田 中 辰 己 関節技 ○植田

加 治 秀 基 三角絞 ○牟礼

小 田 切 裕 治 崩袈裟 ○茨木

岩 崎 保 夫 肩 車 ○塩田

佐 藤 隆 夫 上四方 ○細川

近 藤 啓 一 郎 引 分 ○中塚

立 山 由 生 引 分 ○山下

金 子 正 志 引 分 ○中川

山 本 秀 夫 横四方 副将 ○高木

大将 ○黒部 篤志 背負投 大将 井上

对香川大学对抗試合

七月二十三日

本 塾 3 — 1 香川大学

先鋒 ○高木 関節技 先鋒 永富

○近藤 内股 坂田

副将 立山 引分 岸本

大将 ○植松 一本背負副将 ○三田

優勢 大将 高松

对香川混合軍对抗試合

七月二十三日

本 塾 5 — 6 香川混合軍

先鋒 加治 優勢 先鋒 ○前田

○長島 手内股 倉山

○植松 横四方 永富

○小田切 大外刈 坂田

加藤 引分 三田

羽鳥 合技 ○高松

○鈴木 上四方 白杵

佐藤 優勢 ○茨木

岩崎 大腰 ○瀬尾

高木 痛分 塩田

近藤 一本背負 ○細川

立山 引分 中塚

金子 引分 山本

副将 山本 縦四方 副将 ○牟礼

大将 ○黒部 背負投 大将 山下

对徳島県对抗試合

七月二十四日

本 塾 4 — 10 徳島県

先鋒 ○羽鳥 大内刈 先鋒 樋口(2)

○小田切 優勢 工藤(2)

湯本 合技 ○宮本(2)

鈴木 上四方 ○藤井(2)

加藤 優勢 ○清水(2)

長島 紋技 ○高西(2)

高輪 上四方 ○重井(2)

菅原 優勢 ○藤嶋(2)

加治 引分 武原(2)

○田中(辰) 優勢 京元(2)

平川 引分 横田(2)

○植松 優勢 中津(3)

高木 引分 谷(2)

菅原	縦四方	白石
加治	引分	駄場
田中(辰)	痛分	浜田
平川	引分	大西
⊖植松	優勢	真鍋
高木	引分	仙波
岩崎	崩袈裟	○田窪
佐藤	背負投	○山口
立山	引分	白石
近藤	引分	浜田
金子	優勢	副將⊖木村
副將	優勢	大将⊖山口
大将 黒部	優勢	

長野・松本遠征合宿 (日吉・志木合同)

八月八日〜八月十三日

高校生は黒田部長、清水直臣、安藤両師範指導のもと、日吉高校二十三名志木高校五名で八月八日から十三日まで長野、松本遠征を行なった。長野では長野東高校、松本では夏合宿を共にした松商学園において附近の高校も参加して合同稽古と試合を行なった。

対長野連合軍

八月八日 長野

日吉・志木高校	10	3	長野連合軍
先鋒○麻生恵三	背負投	先鋒	宮沢
佐藤徹也	固技	○大平	
○佐藤信行	固技	金子	
戸塚純	内股	○村上	
高橋健治	引分	市川	
○森吉平	優勢	石田	
相馬紳一郎	背負投	○佐藤	
鈴木晋一郎	引分	青木	
○渡辺知司	背負投	西沢	
○内苑孝美	袈裟固	町田	
○竹内弘平	優勢	小山	
○尾崎透	大外刈	桜井	
○深山隆	内股	上田	
副將○竹内要司	袈裟固	副將	佐藤
大将○島田靖也	大外刈	大将	海原
日吉・志木高校	7	8	長野連合軍
先鋒○吉原収	横四方	先鋒	小原
柏原昭弘	優勢	○金子	
藤原剛	袈裟固	○村上	
望月功	弘腰	○山本	
○小畑政治	優勢	久野	

○内苑	山本	鈴木	相馬	森林	小林	佐藤(信)	○戸塚	佐藤(徹)	麻生	先鋒	日吉・志木高校
袈裟固	上四方	引分	引分	大外刈	優勢	引分	優勢	優勢	閏節技	先鋒	5
○上山田	○小山	清水	西沢	○徳武	○堀内	村上	○佐藤	○湯本	○勝見	先鋒	7
										先鋒	長野連合軍

対長野連合軍

○大将	○副将	○山本	○尾崎	長谷川	森裕	高橋	小林	高橋	小林	副将	深田	○竹内(弘)	○山本	○尾崎	長谷川	森裕	高橋	小林	高橋	小林
大将	副将	袈裟固	合技	内股	優勢	優勢	固技	固技	固技	背負投	閏節技	体落	袈裟固	合技	内股	優勢	優勢	固技	固技	
○大将	○副将	○小山	○寺島	○榎井	○西沢	○町田	市川	市川	市川	大将	副将	海田	○小山	○寺島	○榎井	○西沢	○町田	市川	市川	
大将	副将	青木	藤原	中山	井	田	川	川	川	大将	副将	海田	○小山	○寺島	○榎井	○西沢	○町田	市川	市川	

八月九日

○小	○鈴木	○相馬	長谷川	高橋	永島	○佐藤(信)	○麻生	○戸塚	先鋒	日吉・志木高校
袈裟固	合技	絞技	袈裟固	合技	大外返	支釣込足	優勢	大外刈	先鋒	9
○小山	○西沢	○木村	○春日	○堀内	○佐野	○松野	湯本	石井	先鋒	6
									先鋒	長野連合軍

対長野連合軍

○大将	○副将	○尾崎	○深山	○竹内(要)	○竹内	○尾崎	○竹内(弘)	○竹内	副将	深田	○尾崎	○竹内(弘)	○山本	○尾崎	長谷川	森裕	高橋	小林	高橋	小林
大将	副将	背負投	横四方	優勢	内股	内股	横四方	横四方	背負投	閏節技	体落	袈裟固	合技	内股	優勢	優勢	固技	固技	固技	
○大将	○副将	○山崎	○黒川	○海原	○酒井	○酒井	○酒井	○酒井	大将	副将	海田	○小山	○寺島	○榎井	○西沢	○町田	市川	市川	市川	
大将	副将	山崎	黒川	海原	酒井	酒井	酒井	酒井	大将	副将	海田	○小山	○寺島	○榎井	○西沢	○町田	市川	市川	市川	

○内苑	大外刈	桜井
○竹内	小外刈	松橋
○尾崎	優勢	町田
○深山	弘腰	徳武
副将 島田	絞技	副将 黒川
大将 竹内(要)	弘腰	大将 山崎
对長野連合軍		
日吉・志木高校	6	8
先鋒 田坂	大内刈	先鋒 小林
○柏原	優勢	寺内
○佐藤(信)	支釣込足	新井
井上知昭	袈裟固	○荒井
○麻生	背負落	比沢
○佐藤(徹)	袈裟固	宮沢
永島	横四方	○中村
望月	弘腰	○坪井
吉原	引分	大日方
藤原	弘卷込	○金子
○戸塚	優勢	湯本
長谷川	引分	寺内
森	上四方	○堀内

八月十日

長野連合軍

高橋	大外落	○西沢
副将 竹内(弘)	崩上四方	副将 佐藤
大将 内苑	背負投	大将 松橋
日吉・志木高校	2	13
先鋒 田坂	合技	先鋒 山田
柏原	袈裟固	○松野
永島	合技	○荒井
井上	大内返	○阿部
望月	合技	○大平
佐藤(徹)	体落	○丸山
藤原	片羽絞	○中村
戸塚	合技	○坪井
○佐藤(信)	崩横四方	湯本
吉原	合技	○金子
麻生	引分	寺内
森	優勢	○和田
長谷川	弘卷込	○堀内
高橋	合技	○佐藤
副将 鈴木	合技	副将 松橋
大将 内苑	崩上四方	大将 西沢
对信州工業高校		

八月十一日

副将 ○尾崎	内苑	竹内(弘)	鈴木	○相馬	小林	森	高橋	山本	先鋒	日吉・志木高校	对松商学園	大将 ○内苑	副将 ○竹内(弘)	鈴木	小林	○森	○長谷川	○高橋	○戸塚	先鋒 ○麻生	佐藤(信)	日吉・志木高校
内股	背負投	引分	合技	絞技	崩袈裟	優勢	合技	失格	3	——	6	大外落	合技	優勢	引分	袈裟固	優勢	弘巻込	袈裟固	背負落	合技	8
副将 古沢	○津金	足立	○山口	与智井	○守田	○上条	○降旗	先鋒 ○鶴川	松商学園	大落	副将 清沢	○山越	上原	安部	丸山	飯田	二芽	遠藤	折橋	先鋒	1	信州工業高校

○森	○内苑	高橋	○相馬	鈴木	○山本	○長谷川	○小林	戸塚	永島	○佐藤(信)	吉原	佐藤(徹)	○藤原	○麻生	井上	望月	田坂	柏原	先鋒	日吉・志木高校	对松本連合軍	大将 ○深山
内股	大外刈	袈裟固	優勢	引分	内股	優勢	優勢	支釣込足	大外返	合技	引分	合技	大内刈	背負投	支釣込足	引分	崩袈裟	引分	先鋒	12	——	6
山口	守田	○足立	山越	帶刀	関部	安部	丸山	○清沢	○飯田	西川	奥原	○中谷	遠藤	二芽	○折橋	丸山	○種村	北山	松本連合軍	合技	大将 牧田	

第二十八回早慶對抗柔道戦

十月十日 於 講道館

昨年までの早慶戦の連敗を何としても食い止めようと選手一同、必勝の意気でのぞんだが残念ながら今年も早稲田の牙城をくずすには至らなかった。

先鋒がまず気力あふれる試合運びで先勝するもその後すぐに取り返えされ、差は開く一方で惨敗としかいようがなかった。しかし、大将の頑張りでその差を縮めその戦いぶりは残る学生に活を入れるものであった。また一年生の闘志に満ちた試合は今後に望みをつないだに違いない。

審判員 八段 醍醐敏郎 八段 安部一郎

七段 神永昭夫 六段 渡辺喜三郎

蓬萊	嘉治	崩上四方	○大西
山本	秀夫	引分	大西
高木	啓一郎	優勢	○大沢
副将	金子正志	優勢	大沢
金子		優勢	○野村
大将	○黒部篤志	合技	野村
○黒部		背負投	鈴木
黒部		引分	宮原

本塾

先鋒 ○羽鳥 信(2)

早稲田

合技 先鋒

羽鳥 裕治(2)

大外落

小田切 裕治(2)

引分

忍足 正彦(2)

引分

田中 辰己(2)

弘腰

平川 典利(2)

引分

立山 由生(2)

引分

田中 茂樹(2)

腕搦

岩崎 保夫(2)

移腰

伊藤 定史(2)

片羽絞

植松 修一(2)

大内返

木村 康治(2)

引分

山下 隆司(2)

背負投

佐藤 隆夫(2)

引分

加藤 義康(2)

引分

蓬萊 嘉治(2)

内股

近藤 啓一郎(2)

引分

山本 秀夫(3)

反則

山本 秀夫(3)

大外刈

高木 啓一郎(3)

引分

金子 正志(3)

巴投

副将

背負投

大将

背負投

後藤 久磨生(2)

○秋元 利昭(2)

秋元 貞光(2)

安富祖 貞光(2)

○宮本 裕久(2)

宮本 裕久(2)

内間 次男(2)

○小川 慎一郎(3)

小川 慎一郎(3)

○小川 幸(2)

小川 幸(2)

○長谷川 一幸(2)

長谷川 一幸(2)

坪井 晃(2)

○戸部 隆治(3)

戸部 隆治(3)

浅見 文夫(3)

○島本 修三(3)

島本 修三(3)

○三輪 博己(3)

三輪 博己(3)

○三輪 博己(3)

三輪 博己(3)

優秀選手

○黒部 優勢
 ○黒部 合技 有得敏 昭(3)
 黒部 袈裟固 ○峰岸研二(3)
 荒木寛孝(3)
 不戦 荒木清之(3)
 不戦 大平学(3)
 不戦 梶原和洋(3)
 不戦 副将 内田壮平(4)
 不戦 大将 室田晴康(4)

本 塾 羽鳥 信、黒部篤志

早稲田 秋元利昭、小川慎一郎、長谷川一幸

日吉高校対早稲田高等学院対抗試合

十月十七日 於 日吉高校道場

恒例になった対早稲田学院戦は日吉の新装なった日吉高校柔道場(百三十畳)で行なわれた。試合は一、二年生だけで点取りと勝抜きで行なわれ活気溢れる積極的な試合が展開された。この結果両試合とも塾校が僅差ながら勝ちを収めた。

(点取勝負)

日吉高校 5 — 4 早稲田学院

先鋒○森 吉平 襲田

(抜勝負)

須賀 麻生 惠三
 高橋 健治
 小畑 政治
 ○内苑 孝美
 副将 竹内 弘平
 大将 ○渡辺 知司
 中井
 ○山中
 ○一面
 ○花野
 ○矢作
 ○前沢
 ○川

日吉高校 7 — 6 早稲田学院

先鋒 ○麻生 惠三 背負投 先鋒 襲田
 ○麻生 惠三 背負投 襲田
 麻生 引分 前沢
 ○柏原 昭弘 袈裟固 橋本
 柏原 昭弘 横四方
 佐藤 徹也 十字固
 森 吉平 引分
 小泉 引分
 高橋 引分
 戸塚 純 引分
 ○渡辺 合技 内股
 ○渡辺 池田

植松修一 引分 高橋
 ○立山由生 優勢 川端
 副将○近藤啓一郎 上四方 副将 畠中
 大将 佐藤隆夫 引分 大将 宮原

三回戦

本塾 0 — 3 明治大学

先鋒 高木啓一郎 優勢 先鋒○田中

植松修一 引分 栗原

立山由生 優勢 ○桜田

副将 近藤啓一郎 谷落 副将○佐藤

大将 佐藤隆夫 引分 大将 下瀬

三回戦で今大会三位になった明治大学と対戦した。先鋒は惜しくも技有をとられたが、続く次鋒は引分けて、反撃の期待をいだかせた。しかし、じわじわと差をつづらせ、結果的には三対零で敗れた。なおこの大会では優勝中央大学、二位東京教育大学となった。

追補

中野正三師範 逝去

昭和五十二年十二月二十二日の暁、八十九才の天寿を全うされて先生は逝かれた。

大正五年五月八日慶応義塾柔道部師範の職に就かれてから六十六年、幾多の英才を育て、塾柔道の今日を築かれた功績は大きい。

茲に先生の御経歴の一端を誌し、聊か先生への御恩を謝し、御冥福を祈る。

講道館十段中野正三師範経歴

先生は明治二十一年一月六日新潟に生れ、明治三十八年三月十九日講道館へ入門、横山作次郎師範に師事し、同四十年三月初段、四十一年一月二段、四十二年五月参段、四十五年四段に昇進、当時中野正三、徳三宝、石田信三の三氏をして「講道館の三、三」とその無敵振りを賞賛した。大正五年慶応義塾に迎えられた頃、部史第一巻の大正五年史に「雷名斯界に高き中野正三氏助教として我部に来る。鋭鋒当るべからず、神に入れる其技倆は吾人をして驚嘆せしめ、初段二段、飛んで宛然高等玩

具たるの観あり」と誌されその技倆の程がうかがはれる。

先生に得意技は？ と伺うと「これと言う技はないが、左右なんでも真似は出来る」と謙遜されたが、定評のあったものだけでも、跳腰、内股、背負、足払、裏投とある。

大正七年講道館五段、大日本武徳会精練証、更に同九年教師に進み、大正十五年六段昇進と共に皇宮警察部師範拜命、昭和八年七段、同十二年八段、大日本武徳会範師の称号を受けられたが、その後昇段を固辞され「俺を昇段亡者と一緒にするな」と、あの唸れ声で喝破され、昭和二十三年五月九段昇進を最後、だとかたくなに三十年間拒否し続けられた一徹は将に先生の人格躍如たるものがある。

逝去の日、講道館は十人目の十段位を中野正三に贈った。その日附は昭和五十年十二月二十一日即ち逝去の前日である。